

令和三年度 東京純心大学 看護学部 看護学科

学校推薦型選抜試験（第一回）【小論文】

試験問題

試験時間 90分

注意事項

- ・ 解答は、解答用紙に記入すること
- ・ 問題用紙及び下書用紙も、試験終了後回収する

受験番号

令和2年11月15日

以下の文を読み、設問に答えなさい。

如何に読書すべきか

先ず大切なことは読書の習慣を作ることである。他の場合と同じように、ここでも習慣が必要である。ひとは、単に義務からのみ、或いは単に興味からのみ、読書し得るものではない、習慣が実によくのこすのを為すのである。そして他のことについてと同じように、読書の習慣も早くから養わねばならぬ。学生の時代に読書の習慣を作らなかった者は恐らく生涯読書の面白さを理解しないで終わるであろう。

読書の習慣を養うには閑暇を見出すことに努めなければならぬ。そして人生において閑暇は見出そうとさえすれば何処にでもあるものだ。朝出掛ける前の半時間、夜眠る前の一時間、読書のための時間を作ろうと思えば何時でもできる。現代の生活はたしかに忙しくなっている。終日妨げられないで読書することのできた昔の人は羨望に値するであろう。しかし如何に忙しい人も自分の好きなことのためには閑暇を作ることができる。読書の時間がないと云うのは読書しないための口実に過ぎない。まして学生は世の中へ出た者に比して遥かに多くの閑暇をもっている筈だ。そのうえ読書は他の娯樂のように相手を要しないのである。ひとはひとりで読書の楽しみを味わうことができる。いな、東西古今のあらゆるすぐれた人に接することができるというのは読書における大きな悦びでなければならぬ。読書の時間を作るために、無駄に忙しくなっている生活を整理することができたならば、人生はそれだけ豊富になるであろう。読書は心に落着きを与える。そのことだけから考えても、落着きを失っている現代の生活にとって読書の有する意義は大きいであろう。

読書を欲する者は閑暇を見出すことに賢明でなければならぬと共に、規則的に読書するということを忘れてはならない。毎日、例外なしに、一定の時間に、たとい三十分にしても、読書する習慣を養うことが大切である。かようにして二十年間も継続することができれば、そのうちにひとは立派な学者になっているであろう。読書の習慣は読書のための閑暇を作り出す。読書の時間がないと云う者は読書の習慣を有しないことを示している。読書の習慣を得た者は読書のうちに全く特別の楽しみを見出すであろうし、その楽しみが彼を読書から離さないであろう。

他の場合においてと同様、読書にも勇気が必要である。ひとは先ず始めなければならぬ。我々はつねに読書に好都合な状態にあるのではない。

読書に好都合な状態ができてから読書しようと考えているならば、遂に読書しないで終わるであろう。ひとたび読書し始めるならば、落ち着かない心も落ち着き、憂いも忘れられ、不運も心のかかることなく、すべて読書に好都合な状態が生ずるであろう。いやいやながら始めて、やがて面白くなってやめられなくなる場合が多い。先ず読書することから読書に適した気分が出てくる。ひとたび読書の習慣を得れば、習慣があらゆる情念を鎮めてくれる。落ち着いた大学生といわれる者はたいいてい読書の習慣を有するものである。

(後略)

出典 三木清 著 『読書と人生』 新潮社 一九七四年

設問

著者の主張を要約し、それについてあなたの考えを、一〇〇〇字以内で記述しなさい。